



令和2年7月30日

新たにロボット支援手術2種類（ロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術、 ロボット支援腹腔鏡下仙骨腔固定術）の保険診療を導入

◆発表のポイント

- ・2020年4月より、新たに腎盂尿管移行部狭窄症に対するロボット支援腎盂形成術と女性骨盤臓器脱に対するロボット支援仙骨腔固定術が保険適用となりました。
- ・岡山大学病院泌尿器科では、保険適用に合わせて2020年4月からこの2つのロボット支援手術を開始しました。

岡山大学病院泌尿器科では、全国でも先駆けて（平成22年10月）手術支援ロボットシステムを用いた手術を開始し、これまでに1000例を超えるロボット手術（前立腺、腎、膀胱）を行っております。

2020年4月から、ロボット支援腎盂形成術とロボット支援仙骨腔固定術という2つの手術が新たに保険適用となりました。

これまで岡山大学病院では、ロボット支援腎盂形成術は自費診療で行っていましたが、今後は保険診療で治療を行うことで、患者さんの経済的な負担が軽減されます。女性骨盤臓器脱に対する治療はこれまで腹腔鏡下仙骨腔固定術にて行っていましたが、ロボット支援下にて行うことで手術精度の向上が期待されます。

岡山大学病院では新たにロボット支援腎盂形成術及びロボット支援腹腔鏡下仙骨腔固定術を導入し、保険診療での手術を開始します。

■発表内容

岡山大学病院では、現在ロボットを用いた手術を多数行っており、そのうち泌尿器科では、前立腺、腎、膀胱に対する手術が現在までに保険適用となっています。

2020年4月から、新たにロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術とロボット支援腹腔鏡下仙骨腔固定術という2つの手術が保険適用となり、岡山大学病院ではこれらを開始する予定です。

【岡山大学におけるロボット支援腎盂形成術】

学内の倫理委員会の承認を経て2012年11月に本邦第1例目となるロボット支援腎盂形成術を行い、その後は、自費診療として本手術を行っていました。

【腎盂形成術とは？】

腎盂形成術とは、尿管の狭窄部を切除し、正常な腎盂と尿管を吻合（つなぎなおす）手術です。正常な腎盂尿管移行部はいわゆる漏斗のような形をしています。腎盂形成術の成否のポイントは、



PRESS RELEASE

①きっちりと狭窄部を切除すること、②尿管と腎盂の吻合の精度、③余剰腎盂を適切な形に切除し形成することです。ロボット手術は、繊細なロボットアームを用いて手術を行うため、細かな縫合や切除などが得意です。上述した腎盂形成術の成否のポイントをふまえると、ロボット手術は本手術と非常に相性が良いと考えられ、手術成績の向上や手術時間の短縮が期待されます。

【ロボット支援仙骨膣固定術とは？】

仙骨膣固定術は、女性の膣から膀胱や子宮、直腸などの骨盤内にある臓器が出てきてしまう病気である「骨盤臓器脱」に対して行う手術です。腹腔鏡を使った手術が保険適用になっており、岡山大学病院泌尿器科では2018年から開始し、これまで多くの実績があります。ロボット手術のメリットは組織の剥離層を確認しやすく、体の中での縫合処置が容易であることが挙げられます。新たに保険適用となったロボット支援仙骨膣固定術は、特にこの縫合処置を多用する手術であり、手術時間の短縮や、より繊細で精密な手術操作が可能になると期待しています。

<お問い合わせ>

岡山大学病院 低侵襲治療センター

講師 小林 泰之

岡山大学病院 泌尿器科

助教 佐古 智子

(電話番号) 086-235-7287

(FAX) 086-231-3986

(メール) uro-sec@md.okayama-u.ac.jp



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY



岡山大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。